

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4370800502
法人名	社会福祉法人 愛隣園
事業所名	愛隣の家グループホーム
訪問調査日	平成 20 年 10 月 28 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日平成20年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4370800502
法人名	社会福祉法人 愛隣園
事業所名	愛隣の家グループホーム
所在地 (電話番号)	山鹿市津留2025-1 (電話) 0968-43-0009

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6-41-5
訪問調査日	平成20年10月28日

【情報提供票より】(平成20年10月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	850円/日	その他の経費(月額)	水道光熱費500円/日
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	850 円	

(4) 利用者の概要(10月28日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.34 歳	最低 75 歳	最高 105 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮坂歯科 横手医院 三森病院 大橋通クリニック 山鹿温泉リハビリテーション病院
---------	--------------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特別養護老人ホーム「愛隣の家」や、児童養護施設、身体障害者療護施設等に守られるように建つ、グループホーム「愛隣の家」。「ゆっくり笑顔であるがまま 楽しくみんなとつながろう」の理念そのままのゆったりした暮らしが展開されている。職員は栄養士・看護師・社会福祉士・介護福祉士等の専門資格を持ち、質の良いケアが特徴。法人内外の研修をよく活用し、現状に留まることなく、接遇・記録方法等の工夫を重ね、常に上を目指す姿勢が高く評価できるホームである。また、ホーム内の飾りつけやホーム行事など、家族参加が多くみられ、入居者と家族の関わりを大切にす支援がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「家族の不安への配慮・安心につながる支援」「外食や庭での食事機会を増やし、季節を感じる支援」「テレビのある居間の家庭的雰囲気作り」等、評価を基に改善目標を立て、計画を実行し、さらにその評価を行う真摯な取り組みが確認できる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員がそれぞれ100項目の自己評価を記入したうえで、1項目ずつ全員で時間をかけて検討し、サービス提供にあたって必要なこと、大事なことを再確認し、自己の向上に向け活用がなされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	校区長・老人会会長・公民館役員・民生委員・包括支援センター職員・家族・入居者の参加により、2か月に一回開催。ホームでの暮らしぶりや、活動内容についての報告を行い、参加者に意見を求めている。参加者は地域の要職にあり、ホームと地域の橋渡しや、ホーム入居者の現状知り、入居者が地域行事に参加しやすい環境作りに尽力するなど、有効な会議の活用がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、入居者の写真をふんだんに掲載したグループホーム便りの発行や、家族会を開催。その際の無記名アンケートの実施等、家族の意見を聞き取りやすい環境作りに努め、運営に反映させている。予約により家族にも食事を提供したり、面会のため事務室を開放する等、家族の訪問を積極的に受け入れるホームの姿勢が、運営への家族参加を呼び、ホーム内の飾りつけに参加する家族や、自由な雰囲気での来訪が多くみられ、意見を言いやすい状況が作られている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム入居者は、散歩や買い物、地域行事等に参加する機会を多く持ち、自然な交流が生まれている。また、近隣の人がホームを訪れる機会もあり、生活において孤立感を感じられない。地域小中学校のリサイクル活動へ入居者も協力し、支えられるだけでなく、地域への貢献もなされている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「ゆっくり笑顔であるがまま 楽しくみんなとつながろう」と、平易な言葉の中にも、入居者のあるがままの暮らしを尊重し、入居者が地域や家族・職員と繋がって、楽しい生活を送れるよう支援していきたいとの事業所の思いがよく表れている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記理念は、お仕着せではなく、職員間の話し合いで作られたものであり、自動的に共有化が図られている。理念を玄関・台所・職員トイレ等に掲示し、常に念頭に置き、実践に取り組んでいる様子が窺える。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者は散歩中、行きかう人たちと挨拶を交わし、また、ホームに気軽に立ち寄り、お茶を飲んだり野菜を持参する住民もいて、自然な交流ができています。近隣の祭りや行事等には、情報を集め積極的に参加する姿勢が見られる。行事の際、トイレを拝借したり、階段歩行の介助を頼んだり、地域の人々とのよい関係が構築されている。小中学校のリサイクル活動へ入居者も協力し、社会貢献の機会も作られ、支え、支えられる交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価及び外部評価の意義を説明し、職員の理解を深めている。自己評価は、全員で実施したことで、認知症ケアに対する問題意識がさらに高まる効果を得ている。評価後は「改善計画シート」を作成し、職員間で話し合いの上、改善に向けた計画を実行し、さらにその評価を行う充実ぶりとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	校区長・老人会会長・公民館役員・民生委員・包括支援センター職員・家族・入居者をメンバーに、2か月に1度実施されている。事業所側からは、入居者の暮らしぶりや行事報告を行い、出席者からは、地域行事の案内や、ホームへの配慮ある提案がなされ、実効性のある話し合いになっている。必ず出席者一人ひとりに発言してもらいホーム側の会議運営姿勢が、会の効果的活用に繋がっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	山鹿市は県認知症地域支援体制構築事業を推進中であり、連携し共にサービスの質の向上に取り組む姿勢が顕著になっている。そのなかでも「サポートリーダー養成講座」では、ホーム職員も一般市民と一緒に市民への啓蒙に尽力している。また、市主催で開催される事業所向けの研修会に多くの職員が参加し、連携の機会が作られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の暮らしぶりは、いきいきとした写真満載のグループホーム便りで家族に紹介され、安心に繋がっている。家族の面会は多く、その都度、報告や話し合いがなされている。入居者によっては、部屋のカレンダーに活動内容を記載したり、メールの活用等、個々のニーズに合わせた報告が工夫されている。職員の顔写真を廊下に掲示し、訪問者にも親しみやすい工夫がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を開催し、飲食を伴うアットホームな雰囲気、家族の意見のくみ上げに努めている。また無記名アンケートを実施し、意見を出しやすい工夫が見られる。家族の訪問時には事務室を開放し、装飾品や椅子等にも配慮し、入居者と家族がゆっくり過ごし、家族の意見をこれまで以上引き出せるよう取り組んでいる。また家族の食事予約も受け付け、家族にゆっくり過ごしてもらい、多くの意見を聞きやすい状況を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者はグループホームの仕事の特異性を認識し、法人間の異動を極力抑えると共に働きやすい環境を作り、やむを得ない場合を除いた離職者はみられない。前回評価から現在までの職員交替は、新卒職員の採用が1名であるが、約1か月の新人研修や、最初の数回は夜勤を2名体制にする等の配慮で、利用者へのダメージを防ぐよう努め、入居者からもスムーズに受け入れられている様子が窺える。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の法人主催の研修会に毎月出席すると共に、年に4回、鹿本・菊池ブロックのグループホーム研修会に参加する等、法人内外の研修の機会が多く作られている。毎月いずれかの職員が研修に参加し、研修報告書で成果を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本・菊池ブロックの研修を各グループホーム持ち回りで行き、他事業所の実際を見ながら、互いに研鑽する機会が作られている。法人間の交流も密で、他施設の看護師・介護士との情報交換で、サービスの質の向上に努める環境がある。	○	工夫を重ねた記録方法など、卓越したものがあるホームである。地域は言うに及ばず、今後一層の活躍を望みたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの待機者には時折連絡し、状況の把握を行っている。入居に当たっては、家族や以前の利用施設から、生活習慣やこのみなどの基本情報を集め、全職員で馴染めるための工夫を検討し実施。住み替えによるダメージを極力防ぐため、使い慣れたイス・食器、ダンス、鏡など持ち込んでもらい、入居前と同じ生活が出来るよう配慮している。また、ホームの生活に慣れるまでは、楽しい行事を増やす等の工夫が見られる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	庭のプランターに野菜を作り、調理や片付け、ホームに飾るカレンダー作成など、入居者が主体的に活動できる場面が作られている。また、4月に採用された新卒のフレッシュな職員に対し、入居者が支えてあげようとの言動があり、よい影響が表れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「ケアまるごとシート」「私はこうしてもらったら嬉しい」「からだ機能マップ」「私の人生MAP」等、各種の記録ツールを活用し思いや意向の把握に努め、特に問題があると判断した場合は、「24時間生活変化シート」で、より密な観察を実施し、予防的な関わりを図り、悪化を防ぐ工夫を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャー・担当職員・家族・医師等の意見を聞き、全職員が検討したうえでの、介護計画作成は、家族の満足度も高い。また、多様な情報シートの活用で入居者に関する情報を集約し、ケアプラン作成に役立てると共に、入居者との日頃の会話の中からも思いや希望を聞き取り、介護計画に反映していることが窺える。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	工夫を重ねた丁寧な記録と、達成度を明確にしたモニタリングで変化の状況を確認し、適切なケアプランの変更が行われている。心身の状態に変化がある場合は、特に留意し、24時間シートを使用し記録し、介護計画の変更に役立てている。		
s					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師が常勤し、医療連携体制を活かして、衛生管理や感染症予防、医師との連携、日常の健康管理、入院時の支援等を行っている。法人全体での多機能性を活かした支援として、ホーム喫茶を開催。地域の人や、ホーム入居者にも喜ばれている。また、実家訪問などの個別支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を尊重している。入居者と家族の関係を重視し、通院介助はなるべく家族に依頼しているが、事情によってはホーム職員も受診介助を行う。入院に関しては、「入院状態報告及び治療状況」の記録を行い速やかな退院支援に結びつけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針は、予め重要事項説明書で説明すると共に、本人及び家族と話し合い、意思を確認した「事前指定書」を作成し、方針の共有がなされている。この指定書は、毎年話し合いを重ねて更新し、最新の意思確認に努めている。また、重度化に伴う、本人に適した環境への住み替え支援も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族内にだけ配るホーム便りと、法人全体の広報では、写真の掲載に差異をつけ、プライバシーの保護を徹底している。職員間のミーティングでは、入居者の個人名を出さず部屋番号を使用する等の配慮を行い、入居者の個人情報を保護している。他にも入室の声かけや、排泄誘導など日常的に留意していることが窺えた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が手を出しすぎると、ここに入居する意義が損なわれると、なるべく入居者主体の生活が心掛けられている。入居者の希望を尊重し、コーラスクラブに参加したり、趣味の習字を楽しんだり、日向ぼっこや買い物支援等、入居者の力を引き出し、その人らしい生活支援が行なわれている。「なんでもやってもらおう」という姿勢が見える。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者との話の中から献立を決めることも多く、食事の準備や後片付けは、職員と入居者が楽しそうに会話しながら行われていた。入居者が、やる気を起こすような言葉かけに工夫が見られる。また、食後は、職員と入居者がしばらくゆったり会話し寛ぐ姿が見られ、家庭的な団欒の様相が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に合わせ、毎日でも入浴の支援を行っている。基本は個浴だが、仲のいい人同士で入浴もできる。ぬくもりの感じられる木の浴槽を採用し、入居者の状態に合わせ手すりを増設したり、着替え用の椅子を用意するなど、快適な入への細かな配慮が見える。入浴嫌いの人には、職員間で声かけやタイミングの情報を共有し、無理のない誘いかけに工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のやりがいや達成感を大切に捉え、本人の思いや家族からの情報収集、職員の観察をもとに、それぞれの入居者に合った活躍の場面が作られている。作業しやすい台所配置や、趣味活動に向けての物品の用意、入居者それぞれの性格に応じた家事活動の誘いかけなど、細かい支援の工夫が窺える。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの専用車があり、気軽に買い物やドライブに出かけられる。毎日の食材選びや、毎月の墓参り、散歩、日光浴、関連施設への買物など、一人ひとりの希望に応じた外出支援で、気分転換も図られている。また、外食や、庭での食事の機会も設けられ、ホームに閉じこもらない支援が工夫されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関は施錠することなく、開放的で、地域の人や家族が気軽に訪問できる造りになっている。入居者は、それぞれ自由に居室から庭に入出りでき、気軽に日光浴や散歩をしたり、草花を摘んで飾ったりしている。入居者の外出には、職員は付き添うことで対応し、安全対策に蛍光タスキや懐中電灯も準備している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署による火災を想定した訓練を実施するほか、グループホーム独自の避難訓練を年4回実施し、職員のシフトが異なっても、対応できるように実践的な避難方法を身につけている。一般的な意味での地域住民の参加はないが、ホーム周辺は、同一法人の各種施設があり、特に児童養護施設「愛隣園」の高校生たちは、強力な隣人として協力体制ができています。加えて、法人は地域住民からも頼られる存在となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人・家族から食品の嗜好を聞き取り、食事に反映させており、栄養士による、栄養バランスの整った献立が提供されている。また、コレステロールの高めの人、糖尿病の人、それぞれの疾病に応じた食事の提供も工夫され、食事量・水分摂取量を記録し、体調管理に注意を払っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔で、不快な臭い、音は感じなかった。草花があちこちに飾られ、装飾も華美にならず、シンプル過ぎず、住む人の息吹が感じられる部屋作りがなされていた。場所間違いを防ぐための工夫や、見当識への配慮もさりげなくあり、理念に掲げられている「ゆっくり笑顔であるがまま」の生活が送れるような住まいであった。季節感にあふれ、懐かしい風景・祭りなどを回想できるような飾り付けには、家族の関与も大きく、家族との協働がよくなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの部屋も、馴染みの家具や家族の写真、生活小物などの持ち込みがあり、一人ひとり違った設えで、居心地のいい生活になるような取組がなされている。家族の協力を得ると共に、職員も協力し、入居者の趣味の作品やスナップ写真等を飾る等、家庭的な温かみが感じられる支援である。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	愛隣の家グループホーム
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	山鹿市
記入者名 (管理者)	岩橋 美喜子
記入日	平成 20年 9月 25日

(様式1)

自己評価票(参考例)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	個別のニーズを深く掘り下げ、職員全員で共有し、実践していく。 センター方式の導入
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	気軽に話しのできる日常のお付き合いをもっと増やしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地区行事などできるだけ積極的に参加する

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行っている。(九看大の福祉学科と看護学科、城北高校生、新規事業所の職員など) 中学生のワークキャンプの受け入れも積極的に行なっている。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全員で自己評価に取り組んで、質の向上に努めている。自己評価と外部評価については、グループホーム会議での話し合いや掲示などにより理解を深めている。評価を活かし、具体的な改善に全職員で取り組んでいる。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>評価結果や改善への取り組みを報告し、話し合っ、意見を求めている。 会議の中での意見や話し合いが、サービス向上に活かされている(祭りでスロープの設置やイスを増やしたり、出入り口が行き来しやすくなっていた) 委員全員から意見を出してもらえるように配慮している。</p>	○ 地域との交流についての話し合いを継続して行きたい。
9	<p>○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議が行われるようになって、事業所だけでなく、地域の方も、市担当者の方が非常に身近に感じられ、話しやすくなり、連携がとりやすくなった。山鹿市の県認知症地域支援体制構築事業により、山鹿市との連携ができ、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は家族より相談受け、助言や協力などの支援している。(現在まで、5件の相談・協力) 職員は、鹿本・菊地ブロック研修会にて学ぶ機会あり、情報の共有もできている。</p>	○ 今後も学ぶ機会を作る。
11	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全職員が虐待防止に関心を持ち、事件の報道を話題にあげ、意見を出し合い防止に努めている。また、毎月の身体拘束委員会に参加し、全職員に回覧・報告している。毎月の全体会議では、身体拘束について学ぶ機会が設けられている。他職員の研修報告から学ぶ機会あり。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	鹿本・菊池地域のグループホーム研修会では年4回、隣接の特養での研修会（講師依頼）、県や他事業所の研修会などなるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修後は必ず報告書提出し、全職員が必ず閲覧及び話し合いができています。 事故予防、衛生管理、身体拘束委員会参加及び報告が出来る。	○ 積極的な研修等の参加を継続し、質の向上に努める。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本・菊池地域のグループホームにおいて、年4回研修会を行い、交流会する機会を持ち、質の向上を目指している開設前は、他の事業所にて実習をすることで交流を通じ質の向上につながっている。また、他の事業所開設前の職員の实習も受け入れ、交流により質の向上につながっている。隣接の看護師・介護職員との交流もあり、質の向上につながっている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	隣接の施設合同の職員旅行、忘年会などの交流会への参加やグループホーム職員での食事会において、職員相互の親睦や気分転換が図られている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者と月1回定期的に課題・意見を出せる機会を設け把握している。また、月1回の全体会議においても全職員の状況把握し、職員が意欲を持ち働けるようにしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安や要望を言いやすい働きかけや本人と向き合う姿勢を持ち、配慮や努力をしている。センター方式も活用している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談しやすい声かけや雰囲気作りを行い、家族との信頼関係作りに努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との話し合いの中から、その時、本当に必要としている支援を共に考え、必要により、他の事業所や他のサービスを説明、紹介をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅などを事前に訪問したり、事前に家族・他事業所などからの情報をもとに全職員で馴染める工夫を検討し、家族との相談や協力を得て、サービスを開始してもらっている。安心できる環境作りにも配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活全般において、本人の経験や知恵を言いやすい働きかけにより、一緒に楽しむ場面作りや、職員が学べる場面作りにより、支え合う関係を築けている。また、本人のこれまでの人生を理解した上で、共に生活を考えるように全職員が接している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所時より理解を得て、夏祭りなどの行事や家族会、誕生日に必ず声をかけ協力を得る関係が出来ている。また、教人だが、普段でもホーム内で一緒に食事したり、季節の飾りつけ、衣類の衣替、草取り、食器洗い、通院介助、外出などができている。遠方の方は、電話や手紙にて関係を築くことが出来ている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式を家族に記入してもらって理解を深めたり、本人が家族に上手に気持ちを伝えられない方に職員が本人の想いや普段の言葉を伝えている。また、家族に状況報告する時に本人の良いところ優先して伝えたり、面会時に家族と安らげる空間作りに努めている。家族会年2回開催。春の家族会後の昼食は、家族と共に楽しんでもらっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への散歩や友人への電話・手紙、隣接の施設におられる馴染みの人のおしゃべりを大切にし支援している。馴染みの人と神父様が共に定期的に来訪されている。地域の行事参加時に、馴染みの関係ができています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性・要望を考え、食堂や居間での席を配慮して、利用者同士が支え合うことができています。又、孤立することが無いように、職員が橋渡しになり、より良い関係づくりを支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に入所された方に会いに行き、関係を断ち切らないようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の協力を得て、センター方式の活用により、全職員が本人の人生の情報を把握し、本人の希望を聞き取りながら、本人らしい生活を検討できている。又、要望の訴えない方には、顔の表情や行動、態度、家族からの情報をもとに本人の想いを検討している	○ センター方式の導入にて、本人の意向などをもっと深く掘り下げたい。センター方式の研修会に積極的に参加・勉強できている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の施設や家族からの情報だけでなく、入所後も家族や本人との会話から生活歴を収集している。センター方式を活用し、家族にも記入してもらうなどにも努めている。	○ センター方式の導入にて、本人の意向などをもっと深く掘り下げたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活歴や本人の想いを踏まえ、個別の1日の過ごし方を把握している。又、少しの変化でも記入・共有・ミニカンファレンスの開催にて検討し、全職員で連携をとり、把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当制にて、「私はこうしてもらったら嬉しい」、「人生マップ」などのシート活用、家族の訪問時に意見や要望を聞き、全職員で検討する機会を持っている。訪問回数のない家族には、ホームから聞く機会を作っている。主治医からの意見も聞いている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に評価を行い、見直ししている。必要に応じミニカンファレンスを行い、臨機応変に対応している。家族には随時連絡をとり話し合っている。又、本人の意向に変化や新たな要望がないかを常に考え作成している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の変化や状態が一目でわかりやすいように職員で考えた記録用紙で、情報を共有したり、気づきをケース記録に記入して介護計画に活かし、実践している。連絡ノートを活用し、読んだら必ずサインしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームだけでなく、愛隣園法人全体が持つ事業の多機能を活かした柔軟な支援がある。夜間の協力体制や緊急時の協力体制があり、実際安心したケアにつながっている。近隣に施設が多いので慰問が多く、各施設だけでなく、近所のかたの見物や法人夏祭りなど地域の方の楽しみになっている。隣接施設での、昔ながらの行事（大祓い、紀元節式典、花まつり、法話会など）に参加でき、喜ばれている。また、隣接施設でのコーラスクラブ（毎週1回）は、音楽療法となっている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	多数の施設が近隣にある関係で、保育園・踊りの会などのボランティアなど来訪時、また、各施設行事は、ホームに必ず声かけの働きかけがあり、外出の支援ができています。また、運営推進会議にも働きかけをしている。	○ 今後も運営推進会議等にて働きかけをしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要であれば支援している。現在は、希望時に移動美容室の活用や隣接の施設に催し物があるときは連絡してもらっている。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらうことで、相談などができている。また、この会議での話し合いにて、地域住民代表の方との関係がより強化されてきた。山鹿市の「認知症地域支援体制構築事業」の中の認知症地域サポーターリーダー養成講座でも協働ができている。鹿本・菊地ブロック研修会での講師に来てもらい、協力得ている。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、入居以前のかかりつけ医の病院や近くの病院による受診を家族とホームとで協力して、受診介助、情報提供を行い、医師との連携にて、適切な医療が受けられるように体制を整えている。家族への連絡・報告も行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の専門医等への相談などの支援ができる		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を整え、ホームに正看護師配置により、医師との連携のうえで、日常の健康管理や状態変化に応じた支援や適切な医療活用により、利用者の支援ができています。又、隣接の施設の看護師にも気軽に相談できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は毎日、職員のお見舞いと病院の看護師より情報提供受け、経過記録記入。又、ダメージ防止のため居室にある馴染みの物を持っていったり、早期退院できるように病院関係者に働きかけをしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等と話し合っており、毎年事前確認書を記入してもらっている。全職員、方針の共有ができています。かかりつけ医とも話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合や終末期のあり方についての方針があり、チームとして支援に取り組む体制はある。	○	各個人別に終末期のあり方を深く話し合う機会を増やし、チームとしての支援強化につなげていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ダメージが最小限になるように、事前に十分な情報収集や情報提供を行い、本人や家族等、ケア関係者とも十分な話し合いを持っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	全職員が本人の自尊心を傷つけないように常に考え、声かけやケアを行っている。特にトイレの声かけ等は、プライバシーを損ねないように配慮している。面会簿や居室の名札、広報誌掲載などに関しては、事前に家族の了承を得ている。申し送り時は、名前でなく居室の番地を活用して配慮している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	選択肢を作り本人が選択しやすい場面作りや、日常生活の中で希望、関心、嗜好を言える働きかけをゆっくりとした声かけで行っている。本人の選択後や自分で言えない方に対しても反応や表情などで納得されているかを確認している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペース優先で、柔軟な対応を心がけている。地域や関連施設での行事等も強制することなく本人の選択に任せている。また、本人の希望を確認し、【その時に何を優先すべきか】を絶えず頭の中に入れ、実行している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に合わせ、地域の美容室や移動美容室を利用されている。毎日、化粧されている方もある。服装は、本人に選んでもらうので、若々しい服装や明るい服装を選ばれるようになった方もおられる。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の楽しみは大きいと考え、個人の嗜好を全職員が把握し、食事を個人に合わせ、喜びある食事になるように努めている。特に食欲ありすぎの方（糖尿病）への調理や盛り付けの工夫が出来ている。個人の能力に応じ、調理や盛り付け、後片付けなどできる場面作りを積極的に支援し、増やしている。プランターに野菜を共に作り収穫により、楽しみあるものになっている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望に合わせ、朝のパン、玉子ご飯、減塩梅干し、漬物、ココア、コーヒー、ヤクルト、ビールなど個人ごとに対応している。オヤツもできる限り、本人の希望にあわせたり、手作りの機会も作っている。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の使用によりパターン把握し、時間ごとに声かけ・誘導したり、布パンツにパットのみに対応したりしている。陰部洗浄や清拭も随時行っている。食物繊維の多い食事作り。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制であり、回数や順番は、本人の希望に合わせている。(毎日希望にも対応している)しょうぶ湯やゆず湯など季節を味わい楽しめる支援も行っている。朝風呂希望の方にも支援できている。夕食後の入浴はやってない。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人に合わせた就寝時間に眠ってもらっている。部屋の湿度に注意し、加湿器や濡れタオル、又、エアコンや湯たんぽ使用。自由に2つの居間のイスやソファや畳にて休息してもらっている。不眠時に、ホットミルク、ココア、足のマッサージなどの対応もしている。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の興味や楽しみ、馴染みの行事に合わせたお出かけ先への外出や季節の花見等の支援をしている。調理、清掃、洗濯、片付け、日めくりなど、本人の能力や得意なことを活かした役割を楽しくできるように支援している。また、本人が1人で出来る工夫の実行。季節感を大切にした習字、ゲーム、ホームの飾りつけなどの働きかけをしている。好きな番組はビデオを活用。近くの公園への散歩など、自然の活用。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全職員、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、本人の管理能力に応じ、個人の希望、及び、家族との話し合いにより、自己管理や外出時のみ等の支援をしている。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人に合わせた買い物、日光浴、散歩、近くの公園、病院受診の外出の支援などを行っている。重度の方でも季節を味わってもらうことを全職員が大切にしている。関連施設での買物、催し物、法話会、ホーム喫茶、コーラスクラブへの外出支援もできている。外食・ホームの庭での食事も出来ている。近所の花を摘み、生け花を楽しむ支援もできている。	○ 今後も外食・庭での食事の機会を継続していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	市民会館や八千代座、又、農協の催し物や地域での祭り・温泉祭など個別あるいは、家族と出かけられる機会を作り、支援している。家族の協力、本人の希望などにより、外出回数に個人差はある。イチゴ狩りの支援もできている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけることができる。又、電話がかかってくることもある。少人数だが、手紙や年賀状のやり取りをされている方もいる。電話は2台設置により、使いやすい場所を利用してもらっている。目が見えにくい方には代読している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホーム内で他者に気兼ねなく過せ、食事やお茶ができ、居心地よく過ごせるように配慮している。トイレも家族等が気軽に使用できるように配慮。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接施設との合同の身体拘束廃止委員会に参加することにより、理解や意識を高め、全職員への回覧や報告。又、研修参加のより、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯の面から、夜間は鍵をかけているが、昼間は鍵をかけていない。本人が自由に開けることができる昼間は、玄関にベルを付け配慮し、自由に出入りしてもらっている。帰宅願望ある方には、本人了承の上で、職員と一緒に納得されるまで歩いたりし、支援している。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	建物の中心に対面式の台所があり、調理しながら利用者の様子や玄関の出入りも把握でき、安全に配慮している。精神状態などの情報交換を職員同士で密に行っている。夜間においては、個人ごとに、30分～2時間ごとに巡視を行っている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食の可能性のある方など危険防止に、個人ごと置く場所を配慮して対応している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	隣接施設との合同の事故予防委員会に参加することにより、理解や意識を高め、全職員への回覧や報告ができています。毎月の全体職員会議にて、事故予防訓練など行われている。火災に関しては、訓練や研修会参加ができています。食前に楽しく嚥下運動を行っている。天袋の奥にカーテンの工夫で事故防止にも努めている。随時ミニカンファレンスにて、身体の変化に応じた対応をおこなっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時に備え、全職員がマニュアルを把握している。救急救命措置の研修も毎年参加し、情報の共有もできている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	周りに関連施設が多いこともあり、緊急事態には協力体制ができています。又、火災訓練もできており、緊急用ボタンで隣接施設からの協力体制及び訓練もできている。毎晩、隣接施設職員の声かけ、見回りをしてもらっている。運営推進会議にても話し合っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時や状態変化に応じ、家族と随時話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の個別バイタルチェックや入浴時のチェックなど行い、少しでも変化のあるときは、看護師含め、職員間の情報共有を確実に(記録・報告)に行い、特変時は医師との連携と早急な対応を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別処方箋ファイルが、常時すぐに見れる場所においてあり、全職員は薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。変更時は、確実な申し送りやふせんや袋記載の工夫を行っている。症状の変化時は、看護師・主治医に相談や報告を行っている。服薬介助は、個人の能力に応じた介助を行なっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ヨーグルトや野菜・繊維の多い食品を使った食事作りの工夫を行っている。又、水分補給と運動や散歩の働きかけの支援にて、個人に合わせた自然排便になるように働きかけている。研修会への参加も出来ている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの能力に応じた支援を行っている。また、週1回の入れ歯洗浄(薬)を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや食器、棚、毛布類、ラジオ、テレビなど、及び、家族写真を自宅より持って来てもらっている。家族はいつでも泊まることができる。居室は、和室と洋室がある。ベッドは、本人の希望にて使用、畳に布団の方もおられる。足のマッサージ器具（小）を持ち込み、寝る前に使用の方もおられる。自分で書いた習字紙を居室に張られる方もおられる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日数回、窓開けての換気や温湿度計設置し、外気温と大きな差がないよう温度調節をこまめに配慮している。季節を感じることに配慮したり、冬場は風邪予防に、特に換気に心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	基本的に、バリアフリーである。トイレ・浴室・廊下等に手すり、浴室は身体機能に合わせて利用できるようになってたり、浴室の床はすべり止め加工がしてある。台所の流しの高さは低め、ベッドの高さは調整できる。手すりを増やしたり、フローリングにより、押し車でも自立した生活ができるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室やいすに目印をつけ、混乱を防いでいる。入居者手作りの日めくりカレンダー使用にてわかりやすい配慮。居室入口には、番地と名前の札を掲げ、花やぬいぐるみ等で本人の部屋がわかりやすいように工夫している。トイレも個人に合った配慮をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	庭は芝生となっており、居室からも自由に庭に出て、散歩や日光浴が出来て、ベンチで休息も出来る。庭での花植えや野菜作り、冬場の切り干し大根作り、外でのお茶や食事をする事もある。庭にある木に花が咲くと、花見をしたり、ブルーベリーの実を摘んだり出来、季節を感じる事ができる。毛布干しなど自分でされる入居者もおられる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

◎実践の中での気づきを大切にし、すぐにケアの改善をし、入居者に本人らしく、笑顔で、暮らして頂ける様に、入居者優先に考えてすぐに実行し、日々努力しています。

◎食事は大きな楽しみと考え、①季節を味合う献立に力入れています。②よせ鍋や桶ソーメンなど季節感も大切にしています。③全職員が全入居者の個別嗜好をとても細かく把握し、楽しく食卓を囲めるように、柔軟な支援を行っています。④入居者と共に”手作りお菓子”を楽しんでいます。

◎山と田んぼの中の木造平屋建て、内装（浴室も含む）も木を多く使用した作りとなっており、バリアフリーで、明るく落ち着いた、清潔感ある、家庭的な雰囲気です。

◎自立支援から、「私の仕事」と言って共同生活を楽しまれている。

◎信頼関係を築き、わがままの言える関係が出来ている。

◎入居者、家族、地域の方、職員、行政などが共に支え合い、”楽しく、みんなと つながろう”と考えています。